

平成28・29年度 埼玉県学力向上研究校指定事業研究指定校



研究紀要

<研究主題>

自分の考えをもち 表現できる児童の育成
— 国語科における書く活動の充実を通して —



平成29年11月16日(木)

行田市立西小学校

あいさつ

行田市教育委員会
教育長 森 郁子

行田市立西小学校におきましては、平成28・29年度の2か年にわたり、埼玉県教育委員会「学力向上研究校指定事業」の指定を受け、ここにその成果を発表することに対し、心から感謝いたします。

本校は、目指す児童像「自ら学び ころ豊かに生きる児童」の具現化を図るために、埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、国語科における書く活動の充実を目指した研究を推進しました。その具体的な実践として、基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた個人カルテの作成とその活用、授業力向上に向けた授業展開の仕方の共通理解、言語環境の充実及び表現力の向上に向けた言語環境の整備と国語コーナーの充実など、全職員で総力を挙げて取り組みました。また、本市が推進している家庭学習の充実に向けて、「行田版家庭学習のすすめダイジェスト版」を活用し、家庭学習ノートに「めあて」と「ふりかえり」の記入を徹底するなど、授業と家庭学習をつなぐ取組も継続的に進めました。

その結果、子供たちが自分の言葉で表現する楽しさを多く味わい、埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査において県・全国平均を上回る項目が増加し、また、一人一人の学力の伸びの状況にも改善が見られました。

このように、本校の学力向上に向けた取組が実を結び、研究主題に迫ることができたのは、ひとえに、校長先生をはじめ諸先生方が真摯に研究に取り組んだ成果であると言えます。この研究の成果が、市内のみならず、広く県内の小・中学校で生かされるよう期待いたします。

結びに、本研究の推進に際し、温かい御指導をくださいました、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課、東部教育事務所をはじめとするすべての指導者の先生方、関係の皆様にご心より御礼申し上げます、あいさつといたします。

あいさつ

行田市立西小学校
校長 荻原 章

埼玉県教育委員会では、知事の「埼玉教育の振興に関する大綱」を踏まえ、「埼玉県教育行政重点施策」を策定しています。そこに位置付けられた三つの最重要課題のうち、一つ目に「確かな学力の育成」が掲げられています。確かな学力を育成する施策として県が独自に実施している「埼玉県学力・学習状況調査」は、本年度が三年目となりました。この調査では、児童生徒一人一人の学習の定着や学力の伸びの把握ができるとともに、調査結果を分析し指導方法等を改善することで児童生徒の学力を伸ばすことができます。

学力向上が喫緊の課題となる中、本校では平成28・29年度の二カ年にわたり、埼玉県教育委員会から「学力向上研究校指定事業」における研究校の指定を受け、児童の学力向上を目指した研究を進めてまいりました。まず、県並びに全国学力・学習状況調査結果を分析したところ、国語科における読み取る力や書く力に課題があることがわかりました。そこで、「自分の考えをもち 表現できる児童の育成」を研究主題とし、国語科における書く活動を通して学習指導及び言語環境の充実に関する研究に取り組んでまいりました。

本日の研究発表は、これまでの研究成果のまとめとしての意味合いがあります。参会者の皆様におかれましては、本時授業研究の内容、学習指導案や個人カルテをはじめとした資料等を各学校にお持ち帰りいただき、それぞれの課題に応じた研究に活用していただけたら幸いです。また、本校児童の更なる学力向上並びに研究の更なる充実、発展のため、ご指導くださいますようお願いいたします。

結びに、本研究に対しましてご指導、ご支援を賜りました埼玉県教育委員会、県教育局東部教育事務所、行田市教育委員会の諸先生方、行田市教育指導委員の先生方に心より御礼申し上げます、あいさつといたします。

研究の概要

本校は、目指す児童像に「自ら学び ころ豊かに生きる児童」を掲げ、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指している。昨年度から二カ年、埼玉県から「学力向上研究校指定事業」における研究校の指定を受け、国語科を中心にさまざまな言語活動を通して基本的な知識・技能を身に付け、自分の考えをもって表現できる児童の育成について研究してきた。まずは、埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を分析し、本校の児童の学力の実態、よさや課題を把握し、研究を進めてきた。国語科の現状として、昨年度は、「基礎・基本の定着」が必要であり、「書く能力」に関して課題があることがわかった。今年度は、「書く能力」は昨年度より確実に向上したが、「読む能力」に関して伸びが低く抑えられている状況を掴み、また、文中から主語や述語を抜き出す問題、会話の流れを読み取ったり、文脈を正しく理解したりして答える問題の正答率が低くなっていることから、「文章を読み取る力」に課題があることがわかった。さらに、質問紙調査結果からは「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と捉えている児童が多いこともわかった。このような分析から「読み取る力を高めるための書く活動の充実」に重点をおき、授業をはじめとする実践を通して「自分の言葉で表現する」楽しさを体験させることなどを中心に取り組み、学校全体並びに一人一人の学力が向上するよう研究を進めてきた。

研究の全体構想

学校教育目標

考える子（知） 明るい子（徳） 元気な子（体）



- 関連法規 ○学習指導要領
- 時代・社会の要請
- 学校の特色 ○地域の特性
- 児童の実態 ○教師の願い
- 保護者の願い

目指す学校像

- ・人間育成に視点をあて児童を大切にしている学校
- ・自然にふれあい、豊かな体験活動を進める学校
- ・のびのびとした明るく楽しい雰囲気のある学校
- ・心がつながる特色ある教育を進める学校

目指す児童像

自ら学び ころ豊かに生きる児童

- に：にこにこ笑顔であいさつ
- し：しっかり考え学ぶ
- の：のびのび活動 のびのび運動
- こ：こころを開き成長する

目指す教師像

- ・使命感と情熱にあふれる教師
- ・指導力豊かな教師
- ・人間性豊かな教師

-校訓-

「やればできる」

研究主題

自分の考えをもち 表現できる児童の育成
—国語科における書く活動の充実を通して—

仮説 1

身に付けさせたい言語能力を明確にし指導にあたれば、児童一人一人が自分の考えをもち、学習や日常生活に活用できる力が育つのではないかと。

仮説 2

語彙力を高める言語環境を整えれば、言語活動に広がりが見られ、表現する力や活用する力が育つのではないかと。

企画委員会

研究推進委員会

国語部会

職員会議

学習指導部

授業研究

スキルアップ

言語環境部

言語環境

表現活動

低学年ブロック

中学年ブロック

高学年ブロック

学習指導部

授業研究

「対話」活動（学び合い）

学習材との対話

他者の思考や感情との対話

自分自身との対話

学び合い

国語力 パワーアップカード

発達の段階に応じためあて

国語力に関する本時のめあて
(上記より選択)

身に付いた国語力の振り返り

教師による評価

国語力パワーアップ

スキルアップ

「書く」ことに慣れる取組

県が作成しているコバンプ
プリントを活用し、できたことが
積み重ねで分かるよう、個人
達成票も作成した。

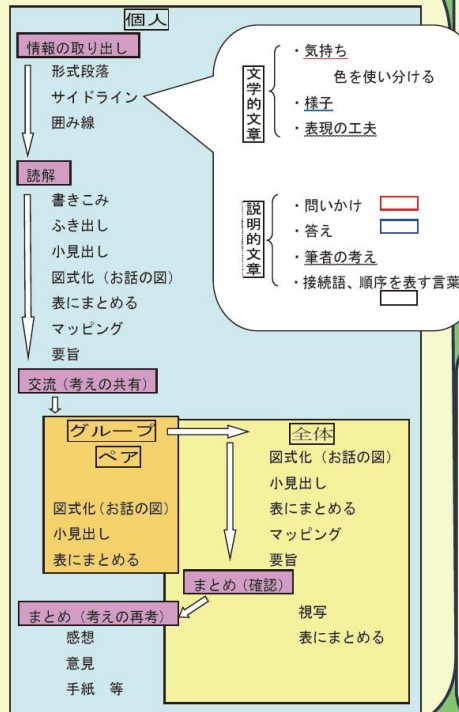
教科書の内容に関する視写。視写は教員
が手書きで手本(左側)を用意し、児童はそ
れを見ながら写し、書く力をつけた。

【仮説】身に付けさせたい言語能力を明確にし指導にあたれば、児童一人一人が
自分の考えをもち、学習や日常生活に活用できる力が育つのではないか。

1時間の学習活動の流れ

学習活動	学習内容
1 かがやきタイム	○一斉音読
2 前時までの復習をする。	○前時の学習の想起
3 本時の学習課題を把握し、見通しをもつ。	
【課題把握】 仲間と話し合う共通話題を確認する。	
本時の課題	
4 学習場面を音読する。	○心情を意識した音読の仕方
5 心情がわかる叙述にサイドラインを引き、気持ちを考える。	○言葉のもつ象徴性や表現上の効果 <学習活動に即した評価規準> <評価方法> <手立て>
【心内対話】 自分自身の問いをもつ。	
6 交流する。	○交流の仕方【視点】
【ペア対話】	
【グループ対話】 友達とかかり合う。	
7 交流する。	
【全体対話】	
8 本時のまとめをする。	○わかったこと・気づいたこと
【個のまとめ】 自分の考えや学んだことを表現する。	
9 ふりかえり (国語力パワーアップ)	○国語力に関する振り返り

読み取る力をつける書く活動



ノート指導

文字を整え、見やすいノートを作ること、考える力を育てることをねらいとして、全学年がマス目のノートを使用する。

高学年



個人カルテ

- 児童が個々に身に付けた基礎的な力を把握し、それぞれの課題を明確にして個に応じた指導ができるようにする。
- 児童のよい面や伸ばしたい力等を継続的発展的に次年度に指導できるよう、引き継ぎの方策として活用する。

名前	1年 10月末	2年 3月末	3年 6月末
1 鉛筆を正しく持つことができる。	△	△	○
2 1分間音読文字数	305	424	474
3 1分間視写文字数	39	37	42
4 ひらがな40文字の音読。	○	○	○
5 ひらがな40文字の視写。	○	○	○
6 カタカナ40文字の音読。	○	○	○
7 カタカナ40文字の視写。	○	○	○
8 長音・拗音・促音を正しく使うことができる。	○	○	○
9 「は・へ・を」の通称語を正しく使うことができる。	○	○	○
10 国語辞書の使い方がわかる。	○	○	○
11 一年の筆字(80)	読める	40	80
12	書ける	77	80

「書く力」を読み取りに生かす

つけた力を生かして

2年生

読み取る力をつけるために、問題文のキーワードに丸をつけて、文章中から答えになる箇所を書き抜く練習をしている。

4年生

子ども新聞の記事を利用した課題を設定し、その文中から自分の関心をもった部分についての考えを書くことで、文章を理解する力・自分の考えを文章にする力をつけることができました。

読みの力を生かして

5年生

新聞を活用した取組。見出し・リード文・本文から書かれている内容を読み取っている。

今年は2面作付け

言語環境部

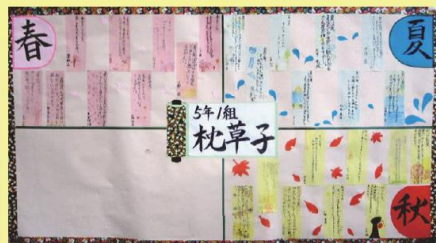
言語環境

【仮説2】 語彙力を高める言語環境を整えれば、言語活動に広がりが見られ、表現する力や活用する力が育つのではないか。

表現活動

国語コーナーの充実

口の体操
原稿用紙の使い方
校正の仕方
季節の詩
敬語の使い方
話し方・聞き方
言葉の泉
(四字熟語・慣用句・ことわざ等)



各学年の実態や授業での取組を生かした掲示を行う。

言葉のシャワー

階段や教室に、四字熟語やことわざ、慣用句を掲示することにより、語彙力を高める。



新出漢字の定着のための漢字・ひらがなの門

心に響く詩

児童に読ませたい詩を各学年の廊下に掲示することにより、たくさんの言葉にふれる機会を増やす。



季節の言葉の掲示

全学年共通で教科書にある「季節の言葉」から、発達の段階を考えて、春夏秋冬の言葉や行事などに興味をもたせる表現活動を行っている。

1年生

あいうえおの歌を作成



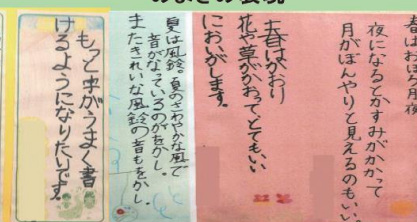
3年生

マッピングやセタの短冊



5年生

枕草子と同じように季節のよさの表現



各学年の取組

国語の単元の中で自分の言葉でまとめる表現活動を行っている。

季節ごとの様子を自分が感じた言葉で表現している。

2年生 つたえたいこの気持ち



相手を考えて季節や行事に関する今の気持ちを短い文で書いている。

4年生 俳句づくり



6年生 西小紹介パンフレット



来年入学する一年生の保護者に西小学校のことを紹介するパンフレットをつくる。

心を豊かに



第一図書室での本の貸出

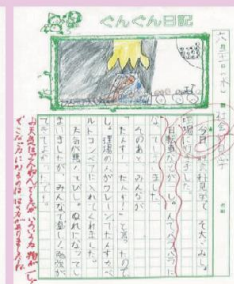
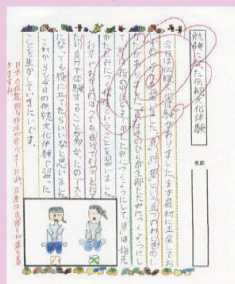
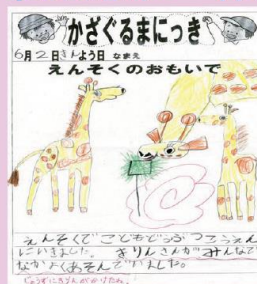


年3回の読書週間におけるランキング学年ベスト5



読書ボランティアによる第二図書室の運営

私の思い 作文コーナー



自分の言葉で表現する力を育む取組として、日常から感じたことや体験したことを日記や作文に記し、掲示している。



研究の成果

★基礎的・基本的な学習内容の定着

○「書く活動」を取り入れた授業改善やスキルアップタイムの取組により、書くことへの苦手意識が少なくなった。また、基礎的・基本的な学力の定着も見られ、特に下位層の児童の学力の伸びが見られた。【グラフ①】

★学力向上のための授業力向上

○1時間の学習活動の流れや書く活動の流れを共通理解し、授業展開に心がけたり、対話活動を重視した学び合いを積み重ねたりしてきたことで、国語科の学習への意欲が高まった。【グラフ②】

★言語環境の充実及び表現力の向上

○校内及び教室の環境整備を行ったことで、児童の学習意欲の高まりや思考力・表現力の向上が見られた。

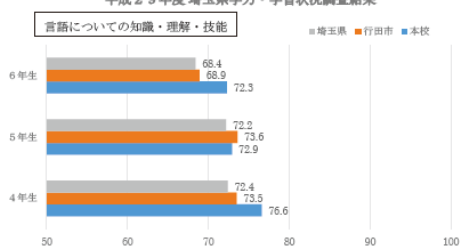
★検証改善サイクルの確立

○教職員全体での県学力・学習状況調査の過去問や調査結果等の分析、学力テストや校内漢字大ずもう等の結果分析を行うことで、児童のよさや課題を発見し、それを伸ばし解決していくためのサイクルが整った。

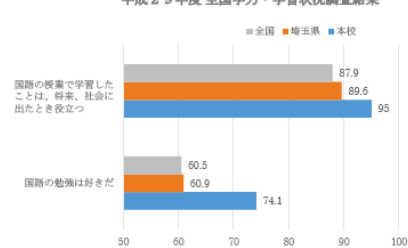
★家庭学習の充実

○全家庭への「家庭学習のすすめ」配付、学級懇談・教育相談等でも話題にしたりすることで、家庭の協力も得ることができ、家庭学習の定着が見られた。【グラフ③】

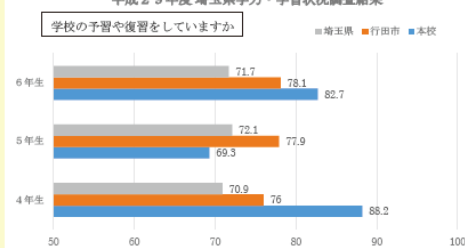
【グラフ①】 平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査結果



【グラフ②】 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果



【グラフ③】 平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査結果



今後の課題

- 自己肯定感がやや低いという課題が見られた。児童のよさをほめて伸ばし、自分のよさを気付かせる工夫をし、改善していきたい。
- 自分の考えをもち、表現できる児童をさらに育成するため、主体的な学び、対話的な学びを積極的に取り入れた授業改善を行っていきたい。
- この研究での成果を持続・発展させ、継続的かつ横断的に取り組むことで他教科の学力向上を図るとともに、小・中連携や家庭との連携にも力を入れていきたい。

御指導をいただいた先生方 ※敬称略

前埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
 前東部教育事務所学力向上推進担当指導主事
 東部教育事務所学力向上推進担当指導主事
 東部教育事務所教育支援担当指導主事
 行田市教育委員会教育長
 行田市教育委員会学校教育部長
 行田市教育委員会学校教育部次長兼学校教育課長
 行田市教育委員会学校教育部副参事兼学校教育課指導主事
 行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹
 行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹
 行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹
 行田市教育委員会学校教育課指導主事兼主幹
 行田市教育研修センター所長
 行田市教育研修センター副所長兼指導主事
 行田市教育指導委員・行田市立見沼中学校教諭
 行田市教育指導委員・行田市立泉小学校主幹教諭
 行田市教育指導委員・行田市立西中学校教諭

市川 篤 史
 下妻 淳 志
 五味 理絵子
 岩見 奈津枝
 堀越 敦
 森 郁 子
 門倉 正 明
 佐藤 明 彦
 芙蓉 良 明
 嶋村 理 彦
 金野 泰 久
 馬場 久美子
 大野 三 佳
 春田 盛 男
 関 泰 伸
 佐藤 いずみ
 清水 裕 代
 福島 裕 子